

常連客が足繁く通う宿 癒しの宿 幸の湯（志賀高原）

中村 克氏 インタビュー



長野県志賀高原にコロナ禍においても常連客の客足が途絶えない昭和42年創業の宿があります。創業以来の常連客も足繁く通う一方で、現在国内に数台しかないスキースノーボードシミュレーターを2019年に導入し、2020年から始まったコロナ禍ではいち早くリゾートテレワーカー向けの長期滞在プランを打ち出すなど、スノーシーズンはもちろん、オフシーズンの需要も創出しながら、新たな常連客を絶えず生み出し続けている癒しの宿幸の湯。その3代目社長の中村克さんにお話を伺いました。

まずは中村克さんの生い立ちについて伺いたと思います。

私は映画「私をスキーに連れてって」が上映された1987年に志賀高原に生まれました。2歳でスキーを始め、5歳でアルペンスキーを始めました。1998年の長野オリンピックでは、志賀高原も会場となり、トップアスリートの姿を目の当たりにして、よりアルペンスキーに打ち込むようになりました。中学3年生時には、全中（全国中学校スキー大会）で優勝、アジア大会でも2位となり、世界を目指したいという気持ちがより強くなっていきました。高校はアメリカバーモント州に留学し、世界のトップ選手たちと活動する機会に恵まれました。帰国後は選手として国内外の大会に出場し、2010年にはW杯出場も果たします。またアルペンスキーだけでなく、フリースタイルクロス選手としても活動しました。その後は、スキークロスコーチとして活動を始め2018年の平昌オリンピックにも帯同しました。コーチとしての活動は現在も続けています。

社長になられたのはいつのタイミングですか？

先代の後を継ぎ、2021年から幸の湯の社長になりました。それ以前からも地元志賀高原でアウトドアアクティビティを中心に地域を盛り上げる活動を地元の同級生湯本祐太郎と始めて、4年前に合同会社MOUNTAIN DISCOVERYとして法人化し、幸の湯の活動と共に、現在に至ります。



常連客から愛される「癒しの宿 幸の湯」

2020年から始まったコロナ禍においても、スキースノーボードシミュレーターでのトレーニングに訪れるアスリートやリモートワークの普及でリゾートテレワークを始める会社員や個人事業主・経営者といった新しい常連客が増えてきているようですが、具体的にはどんなお客様がいらっしゃいますか。

志賀高原はスキーの聖地と言われることもあり、学生時代に幸の湯を訪れ、そこから何年、何十年と通い続けているスキー常連客のお客様もいらっしゃいます。また私がアスリートということもあり、スキー・スノーボードはもちろん、自転車などのアスリートに対してもトレーニング環境として、幸の湯を提供しています。



またコロナ禍において、スキー・スノーボードの楽しみと合わせて滞在中にテレワークをされる、長期滞在の常連客も最近は増えてきました。昨年は長期滞在用の自炊用キッチンも新調し、さらに環境を整えています。



居心地が良いからこそ、常連客や長期滞在者が集うのだと思いますが、お客様との距離感で大切にされていることはありますか。

創業者の祖父は「故郷のない方いらっしゃい」をキャッチコピーに、ふるさとに帰るような感覚を持っていただけるように、アットホームの雰囲気大切にしていました。私はそんな祖父をリスペクトしています。現在も、様々なジャンルの方がいらっしゃる中で、お客様同士が親戚のような関係性になり、交わってコミュニティが広がっています。お客さん同士で「幸の湯いつ行く？」と話し合い、一緒にいらっしゃる事が日常的に行われています。



幸の湯の名物といえば、食堂でのお客さん同士の飲み会ですよね。

みんなでお酒を持ち寄り、掘り炬燵式のテーブルを囲みながら交流が生まれています。また年間通してお客様が友達を連れて来やすいように山菜狩りや和牛BBQなど様々なイベントも企画しています。

志賀高原は地元の玉村本店「志賀高原ビール」が有名ですが、幸の湯は限定品も含め、全種類を仕入れているそうですね。

コロナ禍ということもありましたが、より地域と共に生きることを強く意識するようになりました。日本を代表するクラフトビールである地元玉村本店の「志賀高原ビール」を直接仕入れ、より多くのお客様に味わって頂きたいという想いでお出ししています。

ノーリゾートの宿はオフシーズンの集客が課題だと思いますが、工夫されている取り組みを教えてください。

志賀高原を知らない方からは、やはり夏のイメージがないと言われることが多かったです。しかし、小さい頃から山や川で遊び尽くしていてアウトドア資源は豊富にあると感じていました。そこで、ネパールや群馬県みなかみ町などでアウトドアガイドの修行をし、地元に戻ってきた同級生の湯本祐太郎とSUPやキャニオニングなどのアウトドアアクティビティ事業をスタートしました。



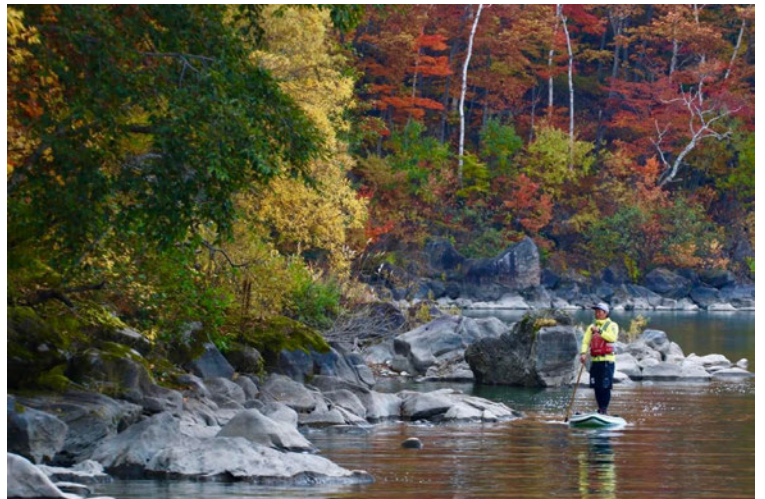
鳴堂の滝(角間川)



横手山ドライブイン

ウィンターシーズンがGW明けとともに終わる志賀高原では他にも、6月は地元名物根曲り茸をはじめとした山菜狩り、7~8月は最長で約3ヶ月鑑賞することができる日本一高い標高を舞う蛍やトレッキング、秋には鮮やかな紅葉など、様々な魅力を季節毎に持っています。

そうした冬以外の魅力を発信することも大事だと思っています。



琵琶池の紅葉

最後に、スノースポーツ、スノーリゾートを愛するみなさんに一言お願いいたします。

志賀高原は、標高が高く、1年で約半年間（11～5月）スキー・スノーボードを楽しむことができる日本有数のスノーリゾートです。ぜひ遊びにいらしてください。

そして私が世界を巡ってきて感じているのは、日本のスノーリゾートは世界が羨む屈指の雪質ということです。

世界レベルのアスリートが、「優勝したら、両親を日本のスノーリゾートに連れていきたい」と言うほど、世界のウィンタースポーツファンが注目をしています。

コロナ禍でインバウンド観光客はまだ戻ってきませんが、今は準備をするチャンスだと思っています。一緒に日本のスノーリゾートを盛り上げていきましょう！



癒しの宿 幸の湯
中村 克氏

株式会社幸の湯代表取締役
合同会社MOUNTAIN DISCOVERY取締役

インタビュアー
杉本 篤彦

株式会社BackCast代表取締役。
2020年春にコロナ禍をきっかけに癒しの宿 幸の湯に。
現在は都内と長野で事業展開。